

令和3年度 初任者研修に係る校外研修「授業参観」

新大分スタンダードについて



令和3年6月
大分県教育庁佐伯教育事務所

本研修の目的

＜「授業参観」研修の目的＞

◇授業づくりに関する授業参観，研究協議を通して，具体的な授業の進め方や改善方策について理解を深め，**実践的指導力の向上**を図る。

その中で・・・

「**習熟の程度に応じた指導**」に係る協議等を通して、「**新大分スタンダード**」に対する**理解を一層深め**，組織的な**授業改善**を推進することにより，管内児童生徒の**学力の向上**に資する。

本資料でお伝えしたいこと

1. 大分県が目指している授業について

2. 「新大分スタンダード」に基づく授業改善について

3. 新大分スタンダードを意識した単元構想について

1. 大分県が目指している授業

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ

(令和2年3月大分県教育委員会)

(P19~21)

第4章 学校に求められる取組

2 授業改善の徹底

① 小・中学校で進める授業改善

授業の質の向上に向けて

<学校に求められる取組のポイント>

◆「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上

- 主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、「新大分スタンダード」に基づいた授業を、単元(題材)のまとまりを見通して1単位時間の「ねらい」や評価規準の適切さ等を確認しながら実施する必要がある。

2. 「新大分スタンダード」に基づく授業改善について

「新大分スタンダード」は、

生きて働く「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力」の涵養を目指す授業改善の視点です。

新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善をより分かりやすく、具体化したものになります。

「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」
(令和2年3月大分県教育委員会)より



新大分スタンダードのすすめ

新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

- *思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

- *各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
 - ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
 - ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

資料1「新大分スタンダードのすすめ」

新大分スタンダードのすすめ

「新大分スタンダード」で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する
ワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- * 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- * 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- * 追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

- * 思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- * 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- * 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

- 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開
- * 各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
 - ・ 知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
 - ・ 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

「新大分スタンダード」による授業改善は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と重なります。

- 主体的・対話的で深い学びについて、中央教育審議会答申(H28.12)には、「単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で表現されていくことが求められる」とあります。「新大分スタンダード」においても、単元や題材等を問題解決的な展開にするよう改善を求めています。

- 「新大分スタンダード」で目指す授業
- (1) 単元や題材の「ねらい」に即した「めあて」の設定では、児童生徒自身が学習の見通しをもち、意欲を高めることを重視しています。
 - (2) 「めあて」に即した「振り返り」を設定することで、本時の学びの成果等を実感し、学んだこと等を次の学びにつなげるようになることを重視しています。
 - (3) 主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開では、知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造などを実現することを重視しています。

平成31年3月(第3版)

大分県教育委員会

資料2「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」

新大分スタンダードに基づく

授業改善Q&A

「新大分スタンダード」とは何ですか。

【回答例】

新大分スタンダードは、生きて働く「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力」の涵養を目指す授業改善の視点です。

新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善をより分かりやすく、具体化したものになります。

大分県教育センター作成 平成29年3月
授業改善Q&A(基礎編)「新大分スタンダードについて」より一部表記を改めた

1時間完結型

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」

*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

1時間完結型の授業とは、どのような授業？

⇒単元構想に基づいたその1単位時間のねらいが達成される授業

⇒児童生徒にとっては、この時間は何について考えればよいのか、解決のために何をするのか、答えや結論は何か等、1時間(1単位時間)の学びが明確で、「分かる・できる」を実感できる授業

板書の構造化

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

板書の構造化とは、どういうこと？

⇒めあてや課題、児童生徒の考え、ねらいに関わるキーワード等が児童生徒の分かるように位置付けられ、児童生徒の深い学びにつながるような板書

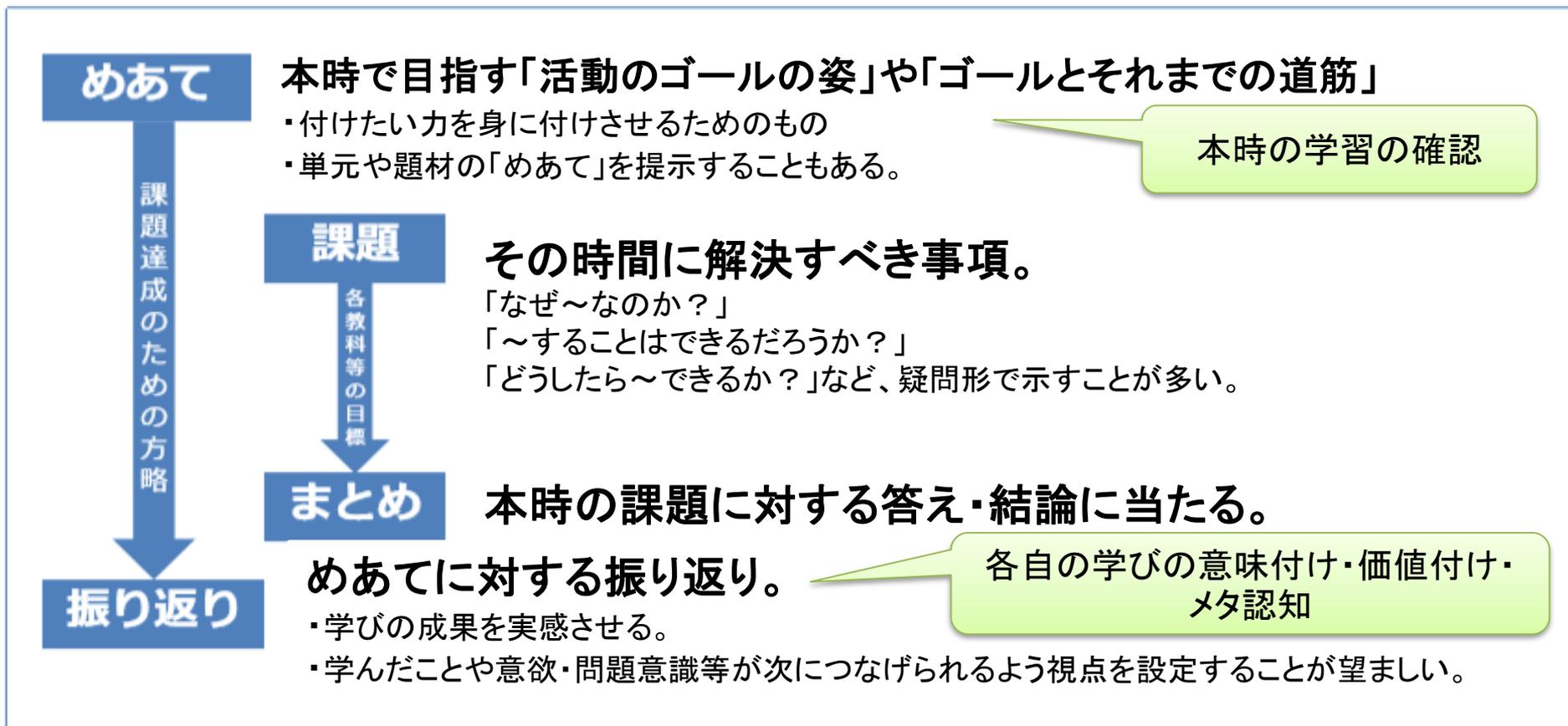


- 児童生徒が何を学ぶのかをしっかりとつかめる板書
- 学習内容の概要を振り返ることができる板書
- 授業のねらいに沿った児童生徒の指導の流れが見える板書

※板書計画を作成する際の留意点

- どこに何が書かれているのか、児童生徒が見て分かるようにする。
- 児童生徒の発言や考え方を、どこにどの程度書いていくのか、計画を立てておく。そのためには、めあてや課題に対する発言や考えを想定しておくことが必要

「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化



- * 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが毎時間の授業で必要だというわけではありません。
- * 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」は、掲示の順序やタイミングも授業によって変化します。
→ 児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定
- * 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等を板書に位置付けるとともにノートと一体化させましょう。
→ 何をどのように学んでいるか等を、児童生徒が振り返ることができるよう配慮

「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つの要素は、1単位時間の中に、すべて設定しなければならないのでしょうか。

4つの要素が毎時間の授業ですべて必要だというわけではありません。

単元の指導計画に基づき、1単位時間の役割や位置付けを明確にして設定することが大切です。

【めあてと課題】

例えば、単元を見通した「めあて」を設定し、本時の授業が開始される前からその「めあて」が意識されているのであれば、確認するだけでよい場合もあります。

また、「めあて」を設定した後、発問等によって「めあて」を具体化し追究する事柄を明確にしていけば、改めて「課題」として設定しなくてもよい場合もあります。

【まとめ】

「課題」を設定したときは答えを明確にする必要があるので、「まとめ」が必要になります。ただし、多様な見方や考え方を求めるような授業の場合は、一つに収束するような「まとめ」ではなく、いくつかの見方や考え方を整理するような「まとめ」が必要です。

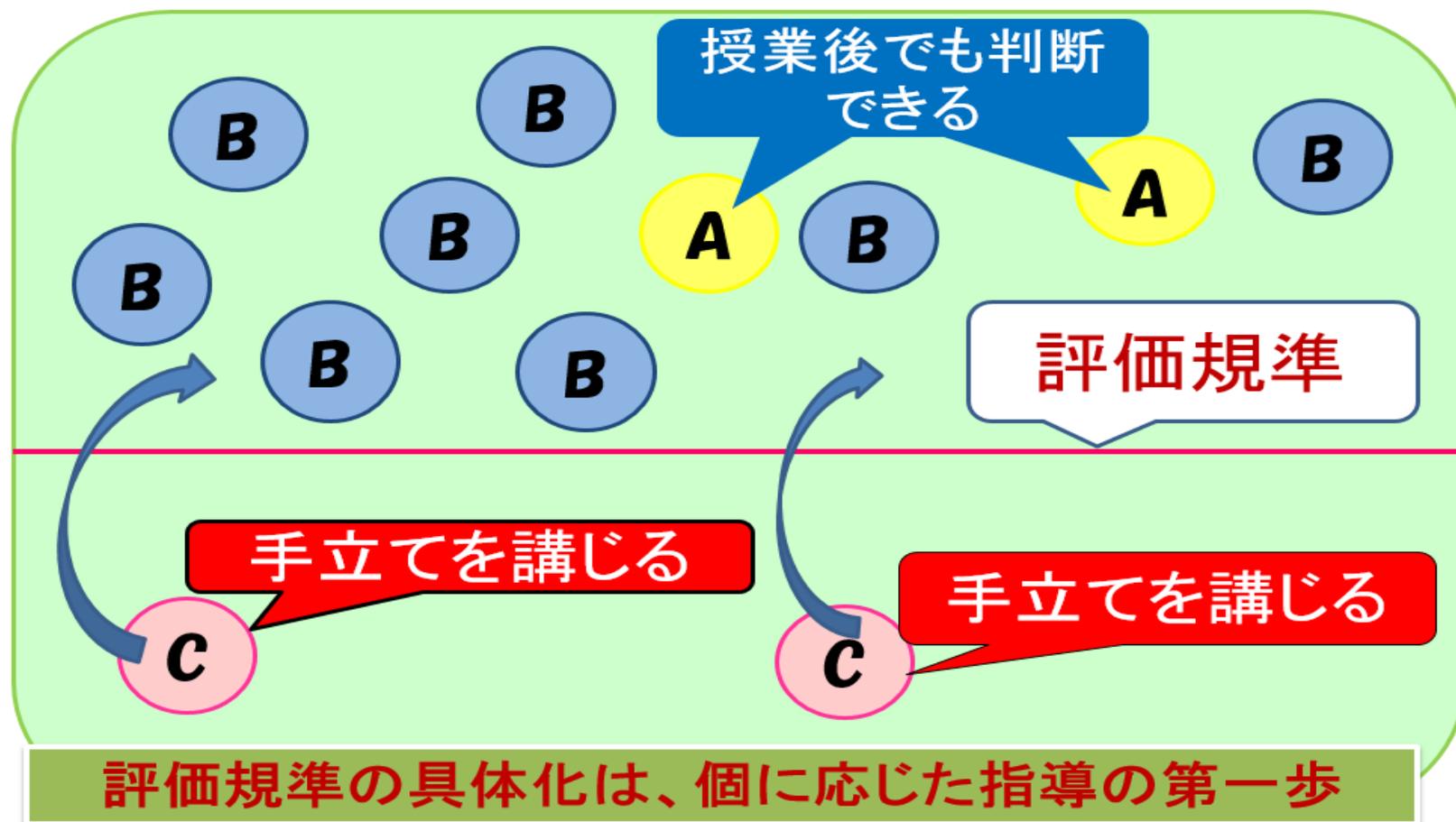
【振り返り】

1単位時間で設定される「振り返り」は、単元の指導計画における位置付けにより、短時間で行う簡潔な「振り返り」や時間を充分にかける「振り返り」等、様々な場合が考えられます。

習熟の程度に応じた指導

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



学習評価のポイント

①「具体的なゴール」を描くために

○求める成果物の**モデル**を自分で作成してみる

- ・本時、本単元で評価するのはどの部分？
- ・どの程度まで求める？

○「まとめ」「振り返り」の文章を自分で書いてみる

- ・身に付けさせたい学習用語や期待する**振り返り**を想定する

振り返る視点を
あらかじめ提示する

②「個々の学習状況を把握する」ために

○まずは児童理解

○思考を可視化する手だて

③評価に関するエラーを自覚する

(例)

○レポートの内容よりもまとめ方を評価してしまう

○話し合いの内容ではなく態度を評価してしまう

○グループの成果物だけで個々の学習状況を見ようとする 等

「生徒指導の3機能」とは

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し自分の考えをもつ

2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(発表・発信)・成就感
個に応じた指導

3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を認め合い、励まし合い
新しい考えを創造

「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり

生徒指導の三つの機能	このような授業(1単位時間あるいは単元)
自己決定の場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付け、それを追究し、自ら考え、判断し、表現する授業(問題解決的な授業の展開) ・「選択」「判断」のある授業 ・話し合いや交流の前に、まず、自分の考え方、感じ方をもって臨んでいる授業
自己存在感を与える場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が学ぶ楽しさや成就感を味わえる授業 ・学ぶ意義や価値、必要感のある課題が設定されている授業・・・学ぶ意欲を引き出す課題 ・目的が明確な学習活動 ・自分の考えや感じ方を書いたり話したりして、みんなの前に示す場面がある授業 ・学習の成果が実感できる振り返り活動がある授業
共感的人間関係を育む場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合い、学び合うことができる授業 ・友だちの考えや感じ方をまず、受容的に聞き取る(受け止める授業) ・話し合い等交流活動の中から新しい考え方が生まれ、話し合って良かった、交流して良かったと実感できる授業 ・もたれかかるのではなく、一人ではできないことを分担したり協力したりすることで成し遂げられる喜びを実感できる授業

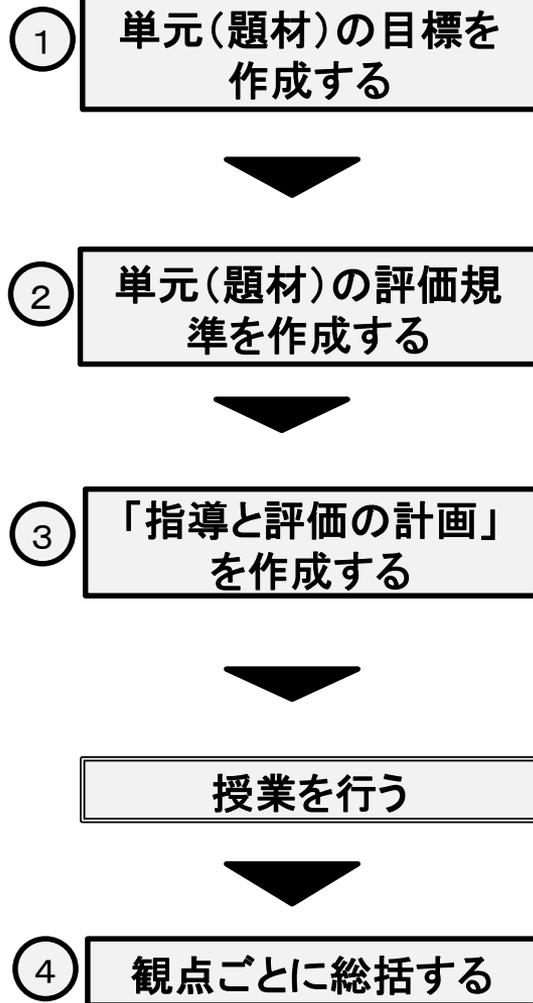
3. 新大分スタンダードを意識した単元構想 ＜問題解決的な展開の授業＞

単元または
1時間で

- ① 学ぶ意欲を引き出す**課題設定**
(考えてみたい・やってみみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための**情報収集**
(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の**整理分析**(比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことの**まとめ・発信・交流**
- ⑤ 学習の成果を**実感させる単元の振り返り及び評価**

単元(題材)における評価規準について

評価の進め方



留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童・生徒の実態、前単元(題材)までの学習状況等を踏まえて作成する。

- 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価の資料(児童・生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するか考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童・生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。



活用！

「早わかり！単元計画の作成手順」

(令和3年2月大分県教育委員会)

① 指導内容(指導事項)を確認する

・指導する領域別目標を確認する(外国語)

② 単元の目標を設定する

・単元の目標と言語活動を設定する(国語)

③ 単元の評価規準を設定する

④ 指導と評価の計画を作成する

・単元の評価計画を作成する(算数・数学)

⑤ 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的ににする

・本時の評価規準をもとに、「十分満足できる状況」や「努力を要する状況」を想定する(小:体育)

※総合的な学習は②～⑤の流れ

音楽、家庭、技術、
図画工作、美術は、
「単元」を「題材」と
しています。

【道徳】

①指導内容(内容項目)を確認し、ねらいを検討する

②指導内容(内容項目)やねらいに関わる児童生徒の実態を明らかにする

③教材を吟味する・・・児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項を検討

④学習指導過程を作成する(新大分スタンダードとの関係も含む)

⑤本時において、期待する児童生徒の学習状況を明確にする(評価の着眼点)

「新大分スタンダード」に基づく授業改善の推進

各教科等における資質・能力の確実な育成をめざして

一層の充実をお願いしたいこと

- 1 単元や題材の目標、評価規準を明確にし、単元構想に基づいた「本時」を構想すること
- 2 教科等の特質を踏まえた質の高い「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定すること
そのために、まず、育てたい資質・能力が確かに育つ学習活動を設定すること
→学習過程の質的改善
- 3 個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫をもって授業に臨むこと
→すべての児童生徒を「概ね満足できる状況」に

「新大分スタンダード」に基づく授業改善

「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートより

観察項目

授業構想	①	教材研究	付きたい力を付ける方法や（学習活動）教材の解釈が適切である。
	②	評価規準	付きたい力に合った評価規準を設定している。
	③	問題解決的な展開	教科の特性に応じた問題解決的な展開である。
導入	④	めあて	本時のめあてが適切に示されている。
		課題	本時の課題が適切に設定されている。
展開	⑤	自己決定	児童生徒が自分なりの考えをもつことができている。
	⑥	共感的な人間関係	交流活動等を通して児童生徒が自分の考えを深化・拡充できている。
	⑦	自己存在感	児童生徒が自分なりに考えをまとめ、表現している。
	⑧	板書の構造化	児童生徒の思考を助けたり、深めたりするのに適した板書である。
	⑨	習熟の程度に応じた指導	児童の習熟の程度に応じて、適切な支援をしている。
終末	⑩	まとめ	課題を設定した場合はそれに対応した適切なまとめができている。
		振り返り	本時の振り返りの視点がめあてに対して適切である。